

第16回 日本・スペイン・シンポジウム開会式

平成25年10月3日 9:00~9:40, 経団連会館

岸田外務大臣 冒頭挨拶

¡Buenos días!(ブエノス・ディラス)

皆様おはようございます。

本日ここに、日本とスペインの交流400周年という記念の年に、ラホイ首相をお迎えしてこのシンポジウムが開催されますことを、主催者として、心からお喜び申し上げます。

今年の2月、私が外務大臣として初めて公式に招待申し上げたのは、スペインのガルシア＝マルゲージョ外務大臣でした。その際の外相会談において、私は、「ラホイ首相と安倍総理は、経済再生を最優先課題としており、同じ方向を向いている。きっと良い協力関係が築けるだろう」と申し上げました。そのラホイ首相の訪日がいま、安倍総理からの御招待という形で実現し、大変うれしく思います。

開会に当たりまして、私からは、まず本日のテーマである「イノベーション」と「新興国市場」について申し上げた上で、これらを踏まえたスペインの魅力について述べたいと思います。

経済再生の鍵となるのは、「イノベーション」の力にあります。日本とスペインはともにイノベーション大国です。さらに、日本の成長戦略の重点分野である再生可能エネルギー、医療、インフラなどの分野は、いずれもスペインの得意分野であります。これだけでも、日本とスペインの協力には、まだまだ大きな潜在性があると期待できます。

特に医療については、懐かしい思い出があります。2005年、私は、衆議院厚生労働委員長として、スペインを訪れました。その際、敷地全体がユネスコ世界文化遺産に指定されているバルセロナのサン・パウ病院を訪問しました。最新の医療技術のみならず、サグラダ・ファミリア教会をはじめ、重厚な歴史的建築物に囲まれながら、心静かに治療を受けられる環境が整備されていることに、深い感銘を受けました。

このように、技術力のみならず、歴史、文化、社会的環境も含めた「総合力」で様々な課題に対応し、人々の安全と安心を確保する、これぞ真のイノベーションではないかと思えます。そしてこの意味で、伝統と最先端技術の調和に長けた日本とスペインが協力することは、必然的なことであると考えております。

私は外務大臣として、日本企業の海外展開支援を重視しています。この意味におきましても、スペインとの協力は大変重要です。

日本や欧州が安定的に成長していくためには、新興国の活力を取り込んでいくことが不可欠です。そしてその意味で、スペインは中南米に深い人脈と情報のネットワークを持っています。日本はこれらをアジアに持っています。我々がそれぞれ積み重ねてきたこれらの「財産」を相互に提供し合うことは、両国共通の利益となります。その意味でスペインは、是非これから協力を強化していきたい、むしろしていかなければならない国であります。

さて、ラホイ首相の下、スペインは、「スペイン・ブランド」の発信に全力を挙げ、かつその中で日本は最重要マーケットになっていると伺いました。

実は私は広島的女子サッカーチームの理事長を務めておりますので、スペインというと、サッカーの強豪国という点がまず頭に浮かびます。スペイン発のファッションブランドである ZARA（ザラ）、LOEWE（ロエベ）、バレンシアガ、カスタニエールは、日本の多くの女性を魅了しています。飾らない雰囲気の魅力のスペイン料理店でパーティーを開く若者もたくさんいます。さらには、2010年のサッカー・ワールドカップ優勝の影響もあってでしょうか、2011年のある国内調査によると、「英語の次に学びたい外国語」として、スペイン語が、中国語・韓国語に次ぐ第3位に浮上したとのことでした。

このように、日本人にとってスペインは既に十分魅力ある国です。しかしながら私は、さらに「その先」を狙いたいと思います。

すなわち、「イノベーション」の一語に象徴される、課題を乗り越え新たな世界を切り開いていくパワーに満ちた国、頼もしい国としてのスペインの姿が、もっと日本国内で知られるようにしたい。これこそが私の願いであります。

その意味でも、本日ここで御議論いただく内容は「日本の頼れる友人としてのスペイン」をここ日本で発信していく上で、誠にふさわしいものであると言えます。日本とスペインが、共に経済成長の果実を分け合い、将来にわたって活力ある国であり続けるための、独創的なアイデアを出し合っていたいただきたいと強く希望いたします。

御清聴ありがとうございました。